



紹介者
遠藤 直紀
ビービット
代表取締役



吉松 徹郎
アイスタイル
取締役会長 CEO

アートとの出会い

最近アートと経営について話がされることも多くなってきましたが、私がアートと出会ったのは十数年前のことです。

MOMA（ニューヨーク近代美術館）の建て替えにあたり、寄付を集めている大先輩から「新しい車を買うのと美術館に名前が一生残ると、どっちがカッコいいと思う？」と聞かれ、「美術館に名前が残るほうです！」と答えて中古車分ぐらいを寄付させていただいたのが、私とアートとの出会いの始まりでした。

私は生まれた時から生粋の理系一家で、それまで美術館なんて家族で行った経験がないどころか、小学校の社会科見学までさかのぼらないと訪れた記憶はありませんでした。「まずは見に行こう」と誘われるがままついていった先は、美術館ではなく個人のお宅や会社の中、時には街の中や自然の中に置かれているものでした。

アートというのは、「美術館で見るもの」と思っていた私にとって新鮮な驚きの連続。正直アートというのは、「何か知識がないといけないのかな」とか「これはどれくらい貴重なものなのだろう？」とか、なにか「アートは学ぶもの」として左脳的思考で理解しようと思っていました。

しかし私が触れたのは、音楽にクラシックだけでなくロックやPopsや演歌があるように、アートにもたくさんのジャンルやたくさんの作品があってもっと自由なものでした。

「カッコいいとは何か」「もてるとは何か」を左脳的に言語化して理解するのが難しいように、「アート」というものを理解することではなく、「自分の好きなもの」を理解していく→少しずつ自分が分かってくる、ということなのだとは今は思っています。

まだまだ自分が知らない世界がたくさんあります。50歳を超えてワインやファッションや旅行など、少しずつ自分の好きなものが分かってくる喜びを楽しんでいます。

▶▶ 次回リレートーク

堀江 章子
アクセンチュア
常務執行役員